

感性を育む和学講座第16回

～端午の節供は「薬の日」やまと言葉神話と大和言葉の世界観～

端午の節供ですが、端午というのは「最初の午の日」という意味です。
古代中国の暦では、十二支の寅から一月が始まり、五月は午の月となります。
「端」は始まりという意味があり、「端午」とは五月の最初の午の日をさします。
「午」の発音から「五」となり、端午の節供は五月五日となりました。

端午の節供の別名を「菖蒲の節供」とも云われています。
菖蒲の花が咲く時期なので、「菖蒲の節供」。

端午の節供の五月五日は旧暦です。旧暦の五月は今の六月。日本では梅雨の頃です。
湿気が多く、食品が傷みやすい時期となります。「忌み月」とも云われていました。

奈良時代以前からこの時期は薬草を摘み、鹿の角を狩る薬狩りが行われていたのです。
西暦611年(推古19年)推古天皇が奈良県菟田野で薬狩りを催し、その後薬狩りは宮中の恒
例行事となり、五月五日を「薬日(くすりび)」と呼ぶようになったと日本書紀に記され
ているのです。

奈良県菟田野は現在の奈良県宇陀市大宇陀迫間や中庄周辺の「阿騎野」を指すと考えら
れています。「日本書紀」には菟田郡に住む押坂値と童子が菟田山のキノコを食べて病
をしないで長命だったとあります。このキノコは「芝草」ということです。
このように宇陀には多くの薬草があり、神仙思想と結びつき御料地となり、薬狩りの地
に選ばれたのでしょう。

奈良の薬の発祥は、推古天皇の薬狩りにあったと考えられます。

それから半世紀ほど過ぎた西暦668年(天智七年)五月五日天智天皇が滋賀県蒲生野で
大掛かりな薬狩りを催します。薬狩りの余興の席で額田女王ぬかたのおおきみ(万葉の歌人)と天智天皇
の弟にあたる大海人皇子おおあまのおうじ(後の天武天皇)の二人の間で、有名な歌が詠まれています。

あかねさす 紫野むらさきの行き 標野しめの行き 野守のもりは見ずや 君が袖振る
額田女王ぬかたのおおきみの歌

(紫草の野を歩き、標野を歩ききして、私に袖を振っていると
警備の人に見られてしまいます)

紫の にほへる妹を 憎くあらば 人妻ゆえに 我れ恋日ひやめも

おおあまの おうじ
大海人皇子の答歌

(美しい紫草のように匂い立つあなたが憎いのなら、人妻のあなたに
何で私が恋をするのだろうか)

「日本書紀」には推古 19 年、推古 22 年と天智 7 年の薬狩りのみが記録されていますが、
宮中で毎年催されていたと考えられています。

平安時代には摘んだ薬草、菖蒲や蓬などの葉を編んで玉のように丸くして薬玉を作り、
これに五色の糸をつけていました。これが現在、お祝いの場で割られる「くす玉」の起源
です。

薬草で作られた薬玉は、造花などの装飾をして贈答にもされたようです。

薬玉は邪気を祓うものとして扱われ、柱にかけておきました。九月九日の重陽の節供には
菊の花を絹に包んだものと取り替える風習がありました。



また、鹿の角は「鹿茸 (ろくじょう)」と言って、漢方薬に使われます。
強壮薬、鎮痛薬などに用いられました。

端午の節供は、間もなく始まる農事の前に女性が小屋に籠り、禊をする日でもありました。

その時にも薬草を用いて邪気を祓いました。その名残が現代まで続いている、菖蒲をお風呂に入れる「菖蒲風呂」です。

武家社会になると「菖蒲」と「尚武」をかけて、男性の節供の色合いが濃くなっていきます。武家では戦で名をあげるようにとの祈りを込めて甲冑や武者人形を飾ります。そして、その横には時代が移っても変わらず、菖蒲の花が添えられるのです。



・五月五日は実は女性の節供？

旧暦の五月五日は田植えの時期でもあります。田植えは神事で、「早乙女」という言葉があるように女性が行っていました。神聖な田に入る前に穢れを祓うために、菖蒲や蓬で葺いた家に女性がこもって過ごすという風習があったのです。男性は前日から戸外に出払っていました。

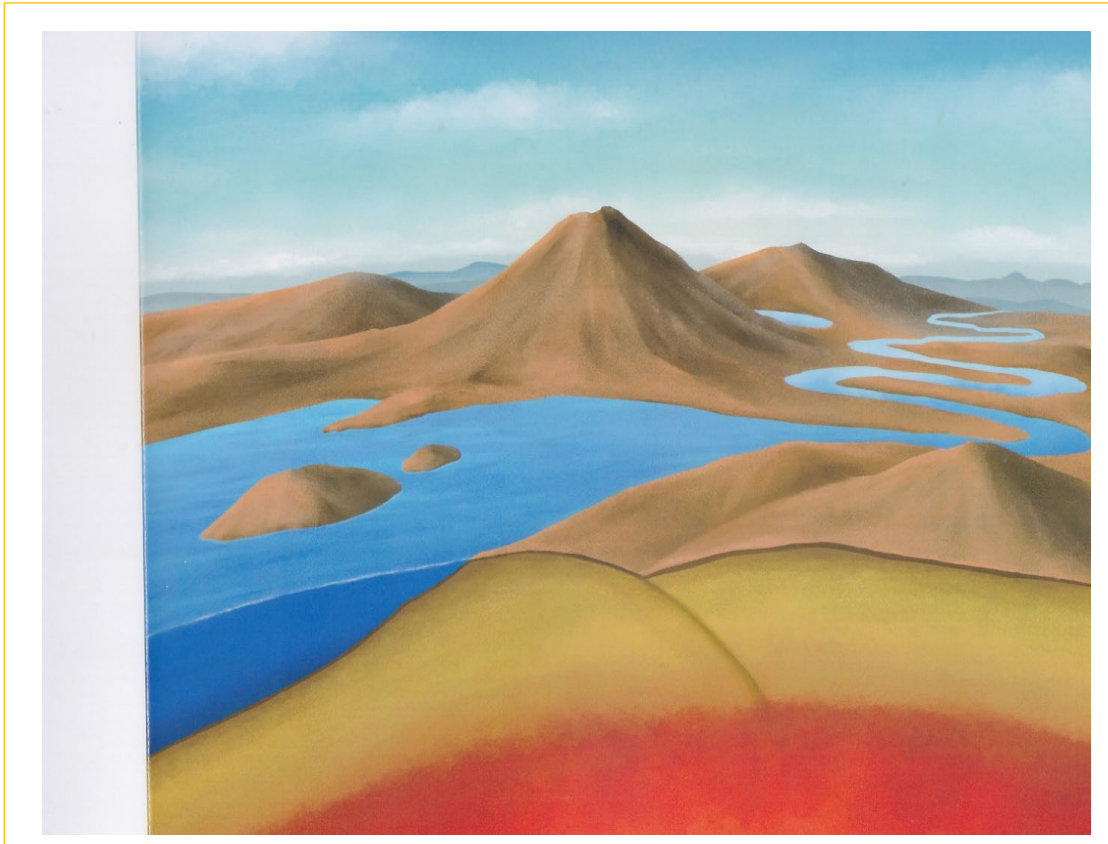


この風習は近松門左衛門が五月五日のことを「女の家」と述べています。

・男子の節供

現代では男の子の成長を祝い、健康を祈る節供となっています。鎌倉時代になると菖蒲と尚武をかけて、また菖蒲の葉が剣を連想させることから、男の子の節供と江戸時代に制定されました。

やまと言葉神話 やまと言葉でひも解く古事記冒頭部分



さらに地球が大きく固まります。

陸地や海、山々や川ができました。

地球の内部も、しっかり組み立てられました。

タテに固まるのが男神のオホトノヂの神

ヨコに固まるのが女神のオホトノベの神です。



こうして地球は、しっかりと成長しました。

環境がととのい、動物や植物が豊かに育ちました。

その豊かになったようすが男神のオモダルオモダルの神、とてもすばら

しいようすが女神のアヤカシコネアヤカシコネの神です。

※オモダル 表が満ちたる

アヤカシコネ アヤは「綾糸」など綺麗な様子

カシコネは「かしこし」畏れおおいという意味。

アヤカシコネは畏れおおくなるほど美しい、ということを表しています。



地球はりっぱな星となりました。

生物と環境、動物と植物などが、

お互いに誘ったり誘われたりします。

生き生きした活動のはじまりです。

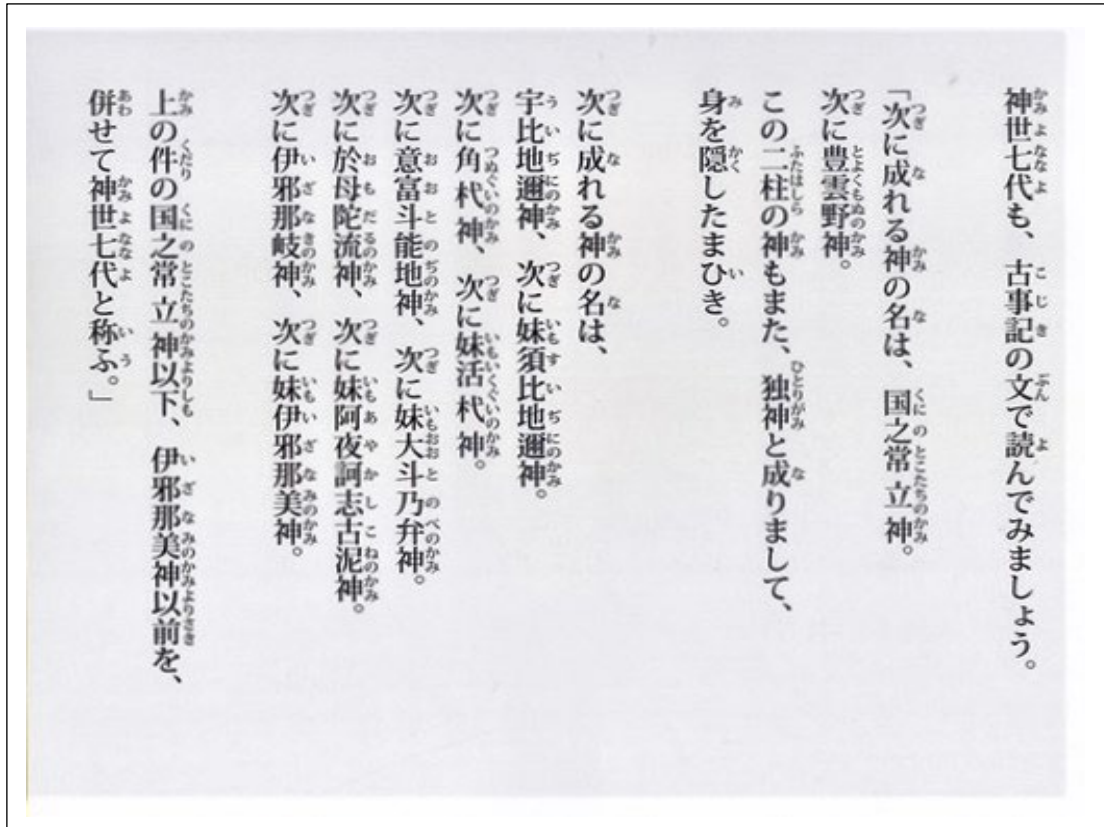
その強く誘うのが男神のイザナキの神、

優しく誘うのが女神のイザナミの神です。

※イザナは誘うで、誘い誘われる誘引活動

キは厳しさ、きついから強さに繋がり、男性を

ミは見るのミで優しさから女性を意味しています。



神世七代も、古事記の文で読んでみましょう。

「次に成れる神の名は、国之常立神。

次に豊雲野神。

この二柱の神もまた、独神と成りまして、身を隠したまひき。

次に成れる神の名は、

宇比地邇神、次に妹須比地邇神。

次に角杵神、次に妹活杵神。

次に意富斗能地神、次に妹大斗乃弁神。

次に於母陀流神、次に妹阿夜訶志古泥神。

次に伊邪那岐神、次に妹伊邪那美神。

上の件の国之常立神以下、伊邪那美神以前を、

併せて神世七代と称ふ。」

やまと言葉

いろ→「い」は命のい、息吹のい。

「ろ」は動くこと。流動。

「いろ」は感情が動くことを表します。

いろは→母親

いろも→妹 女性一般

いろせ→男性 兄弟

いろど→弟 妹

いもせ→男女 夫婦

いもせ→いせ→夫婦 男女